

# 栃木県立小山北桜高等学校 食料環境科

～食料生産や環境創生の分野で活躍できるスペシャリストを育てます～

## 学科の目標

食料の生産や環境の創生に関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、農業の経営や造園等の環境関連産業に従事できる実践的な能力と態度を育成する。

## 育てたい生徒像

- ・生命の大切さと自然の尊さを理解できる生徒。
- ・産業人としてのマナーを身につけ、組織の中で役割を自覚し周囲から信頼される生徒。
- ・正しい勤労観・職業観を身につけ、社会に貢献できる生徒。
- ・農業や食品、環境などの関連産業の仕事に真摯な姿勢と責任感を持って従事できる生徒。

## 学科の特色ある教育活動

食料環境科では、日頃の学習だけでなく校外・地域での実習や実体験を通じた学習として、次のようなボランティア活動や地域貢献活動へ積極的に取り組んでいます。

### 校内、地域で様々な学習活動を展開



おじゃま  
しました。

## 栃木県立小山北桜高校

水稻品種「愛国3号」田植え 取材日：令和6年5月21日



田植機での植え付け作業の様子。



交代で作業を行います。



田植機用の苗を準備しています。



採種用稲の苗は手植えします。

小山北桜高校の農場において、日本酒の醸造を目的に栽培した水稻（品種：愛国3号、総作付面積：約60a）の田植えが行われました。（当日の田植えは30a）

愛国3号は栃木県内で主食用として約70年前に栽培されていた品種です。

愛国3号の栽培は、下都賀農業振興事務所と酒造会社、農業高校が連携し「酒米復興プロジェクト」として令和4年から始まりました。

昨年の試験醸造用の作付を経て、3年目の今年は販売に向けた本格醸造用として栽培され、収穫した米は地元酒造会社にて醸造されます。

当日は、食料環境科の2年生15名が担当の先生の指導のもと、採種用稲の苗の手植えと醸造用稲の機械植えを行いました。

生徒達からは「田植機に乗るのは初めてで、緊張する」「曲がらないように走らせるのが大変だった」といった感想がありました。

また、採種用稲の苗は、生育中の遺伝的な発現状況を確認するために、生徒達は1株ずつ丁寧に120株を等間隔に手植えしました。

苗箱の手入れも  
しっかりやるよ。

